

ネットワークの特性

ネットワークが基盤の情報社会

情報社会は、我々の日常社会の延長にあり、様々なルールやマナーも日常社会のものがそのまま適用される。しかし、その一方で、情報社会は高速・大容量・広範囲のネットワークを基盤にしているため、日常社会とは異なった特徴がある。

ネットワークのトラブルを防止したり、ネット犯罪から身を守ったりするためには、情報社会やネットワークの特性を理解することが大切である。

ネットワークやその中でやりとりされるデジタル情報の特性について、以下にまとめてみる。

等質性・仮想性

人はそれぞれ身長や声の質、家族や社会的立場など具体的な特徴や個性を兼ね備え、かけがえのない1人の個人として生きている。

しかし、ネットワークのユーザーは、同じ権限でログインすれば具体的な身体性は削ぎ落とされ、誰もが同じユーザーとして抽象化されて等質で仮想的に扱われる。このため、社会的立場や経験などが問われることなく、大人も子どもも区別されない。

同時に、ひとたびネットワークに参加すれば、法律やマナーの遵守など基本的な社会ルールを守らなければならない。子どもたちがネットワークをおもちゃのように冗談半分で扱うことは許されないのである。

匿名性

ネットワーク上では通信相手の顔が見えない。たとえ相手が名前を名乗っていても、その人が本当にその人なのかどうか認証することは困難である。そのため、なりすまし(→p.69)など匿名性(→p.66)を悪用する行為に注意する必要がある。

情報の量と速さ

ネットワークの性能は年々向上し、大量の情報が瞬間に地球を駆けめぐらようになった。1人分の個人情報でも、100万人分の個人情報でも同じように、一瞬のミスで情報漏洩を引き起こす。情報の持

つ社会的影響力の大きさに気づかなければならないのである。

複製性

情報は容易にコピーされ、まったく同じ物が複製される。そのため、一度ネットワークに発信された情報は複製され続け、取り戻すことができなくなる。ひとたびミスが発生すれば、回収不能に陥り、取り返しがつかない結果となるのである。

可塑性

情報は次々とその形を変える。アンケートに答えただけなのに、WEBページに載っていたり、学校の学習活動の写真が児童ポルノのサイトに掲載されたりしてしまうことがある。

双方向性

インターネットは情報を受け取るだけでなく、誰もが情報を発信することを可能にした。そのため、訓練を受けていない子どもたちがブレーキのかからない情報発信をすることを止められなくなっている。